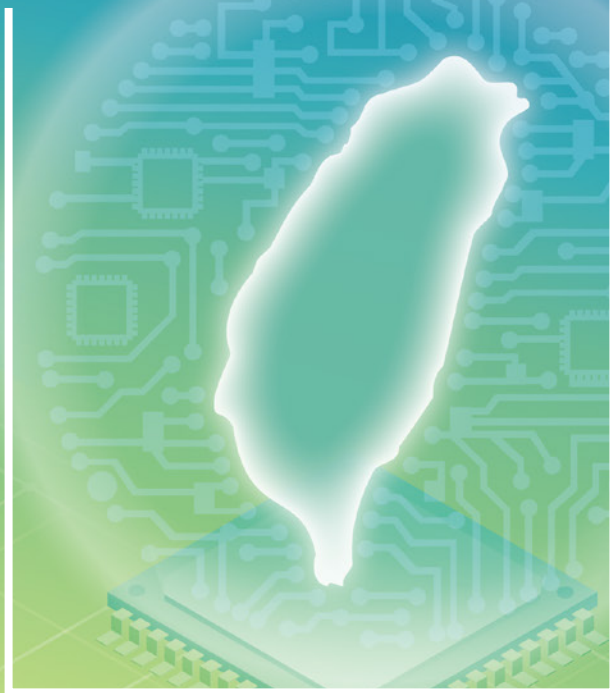


2024-2025

TAIWAN

台湾のしおり

中華民国（台湾）
外交部発行



このページはしおりとしてお使いいただけます。



2024-2025

TAIWAN

台湾のしおり

中華民国（台湾）
外交部発行



2024-2025

TAIWAN 台湾のしおり

発行者：中華民国（台湾）外交部
中華民国（台湾）100202台北市凱達格蘭大道2号
<https://www.mofa.gov.tw>

編集：張慧文、張玉馨、Torie Gervais、Clare Lear、
Kai Genak

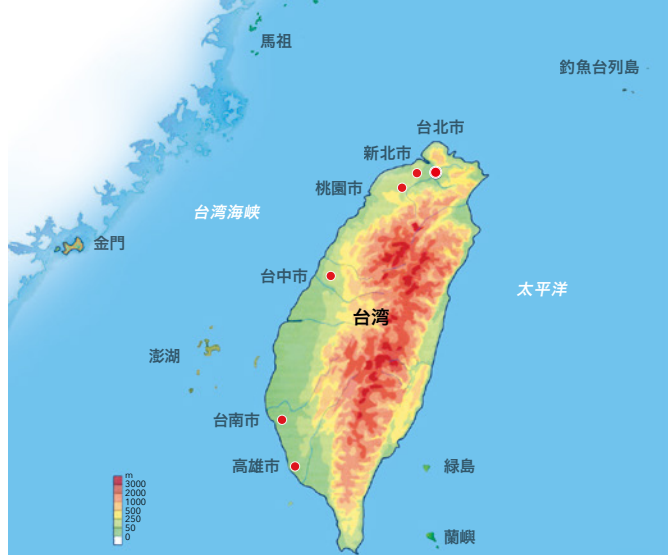
日本語編集：永吉美幸
レイアウト及びグラフィック：蔣謹安、林倩如

発売：光華画報雑誌社
中華民国（台湾）100209台北市愛国西路2号
Tel : (+886)-2-2397-0633
<https://www.taiwan-panorama.com>


印刷：中華彩色印刷股份有限公司
中華民国（台湾）231029新北市新店区宝橋路229号

目録番号：MOFA-JA-BL-113-053-I-1
GPN：1011400110
ISBN：978-986-5447-83-0
初版：2025年2月 D3
Printed in Taiwan
価格：台湾ドル70元／日本円200円

本書の全部または一部を無断で複写複製することは禁じられています。
本書からの複写を希望される場合は、下記までご連絡ください。
中華民国（台湾）外交部 Tel: (+886)-2-3343-2712



台湾の基本データ

国号	中華民国（台湾）	政治	多党制民主主義
国旗		総統	頼清徳
国花	梅	首都	台北市
面積（台湾本島および周辺の島嶼）	3万6,197平方キロメートル	直轄市	台北市、新北市、桃園市、台中市、台南市、高雄市
人口	2,340万人（2024年6月現在）	通貨単位	新台幣ドル（NT\$またはTWD）
エスニシティ	95%以上は漢民族、2.5%はマレー・ポリネシア系先住民族、2.5%は新住民と呼ばれる主に中国と東南アジア出身の配偶者	使用言語	台湾華語（マンダリン）、台湾語、客家語、台湾先住民族の各言語
		主な宗教	仏教、道教、キリスト教、一貫道



目次

01	台湾の自然	8
02	国民	14
03	歴史	18
04	政治制度	30
05	外交	38
06	海峡兩岸關係	50
07	経済	56
08	科学技術	66
09	教育	72
10	文化	76
11	マスメディア	80
12	台湾への旅行	84



(陳美玲撮影)

台湾の 自然

01

台湾豆知識

台湾の玉山は東アジアの最高峰です。

国土の約20%は自然保護エリア
なっています。

中華民国（台湾）は西太平洋にあり、日本とフィリピンの間に位置する。その領土は台湾本島、澎湖諸島、金門、馬祖、そして多数の島嶼からなる。総面積は離島も含め3万6,197平方キロメートル、ちょうどオランダと同じ面積だが、人口は2,300万人余で世界の4分の3の国より多い。台湾本島は豊かな自然に恵まれて

台湾北部・基隆市の和平島公園。自然の力によって形成された地質景観と海を眺めることができる。(莊坤儒撮影)



いる。東アジアの最高峰である玉山を含む標高3,000メートル以上の山々が連なり、森林に覆われた山地が全面積の半分以上を占める。また火山、高原、沿岸平野、盆地などの地形が際立つ。台湾本島の北東にある釣魚台列島および、南シナ海の東沙（プラタス）諸島、南沙（スプラトリー）諸島、西沙（パラセル）諸

地理データ

国土面積： **36,197** km²



台湾には多種多様な動植物が生息している。写真は台湾固有亜種でイタチ科の動物キエリテン。(莊坤儒撮影)

島、中沙諸島（マックルズフィールド堆）といった群島も領土の一部である。

ユーラシア大陸の東岸域を流れる暖流の通り道に位置するため、台湾本島は珍しいことに熱帯から温帯までの幅広い気候帯に恵まれている。これに肥沃な土壌と豊富な降水量が加わって農業天国を形成し、あらゆる種類の果物や野菜が栽培でき、また豊かな気候は台湾をレジャー・パラダイスにしている。冬に南投県合歓山の山肌で降雪を見てから、わずか200キロ離れた最南

端の温暖な屏東県に移動すれば、サンゴ礁でスキューバダイビングができる。

一方、数々の離島にもそれぞれ特徴的な自然景観がある。例えば、澎湖諸島では巨大な柱状玄武岩が見られ、緑島と亀山島の沿岸では海底から温泉が湧き出ている。

動物と植物

熱帯から温帯までにわたる気候帯とバラエティに富んだ地形は多様な動植物を育てている。台湾には123種類の哺乳動物、758種類の鳥類、117種類の爬虫類、43種類の両棲類、404種類の蝶類、2,975種類の魚類が生息している。植物については、790種類のシダ植物、5,718種類の被子植物、108種類の裸子植物が生息している。これら多様な動植物が生息する生態系を保護するために、政府は国土の約20%を自然保護地域に指定しており、国家公園が9ヶ所、国家自然公園が1ヶ所、特殊な生態系のための自然保護区が22ヶ所、森林保護区が6ヶ所、野生動物保護区が21ヶ所、そして野生動物重要生息環境が39ヶ所ある。

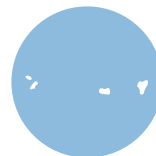
動物類の中で最も有名なのは台湾マスのであろう。マスが台湾中部山間の冷たい溪流に封じ込められたのは、氷河期に海面が急激に下がり、淡水と海水の間を行き来することができなくなったからだと考えられている。この絶滅危惧種を保護するために、雪霸国家公

園内の大甲溪上流には台湾マス保護区が設けられている。

国家公園



金門国家公園



澎湖南方四島
国家公園



東沙環礁国家公園

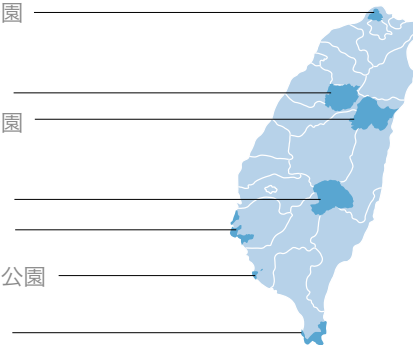
陽明山国家公園

雪霸国家公園
太魯閣国家公園

玉山国家公園
台江国家公園

寿山国家自然公園

墾丁国家公園



天地の精霊に感謝するため、アワの収穫祭を行うブヌン族の人々。(林格立撮影)

国民 02

台湾豆知識

台湾には公式に認められた16の先住民族がいます。

台湾は「新住民」と呼ばれる、主に中国や東南アジアなど海外出身の配偶者59万人のふるさととなっています。

台湾は、漢民族が圧倒的多数（95%以上）を占める社会だと思われるだろうが、ここに伝わる文化は実際にはそのように概括できるほど単純ではない。17世紀以降、継続的に台湾に移住してきた華人は、それぞれ異なる言語と習慣を持つ多様なサブグループに分けられ

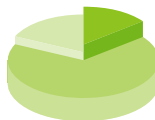
る。しかし、その後の婚姻や華語（マンダリン）の普及などにより、今日の台湾では、それらサブグループ間の相違は曖昧になっている。台湾には多様な漢民族のサブグループだけでなく、マレー・ポリネシア系の先住民族と世界各地からの移住者によって多文化社会が形成されている。近年では中国や東南アジアから主に婚姻による流入もみられ、このような移住者「新住民」の数は現時点で59万人を超える。

オーストロネシア語族に属する、16の公式に認められた先住民族は全人口の2.5%強を構成し、社会的にその文化遺産に対する認識や評価が高まっている。政府や民間の機関は、先住民の言語や文化の復興に力を注いでおり、先住民族テレビ局が設立されたり、「先住民族基本法」が制定されたりしている。

こうしたヒューマニズムの潮流に伴う融合と相互作用は、台湾社会が世界中の多様な文明要素を調和のとれた方法で吸収し、率直で前向きな社会になるよう促している。

人口データ

総人口： **23,412,899** (2024年6月)



人口構成（年齢別）

- 0-17歳：14.64%
- 18-64歳：67.44%
- 65歳以上：17.92%



エスニシティ

- 漢民族：95%
- 先住民族：2.5%
- 新住民：2.5%

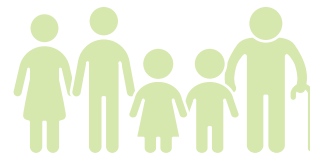
出生率（2023年）： **5.81** ‰

死亡率（2023年）： **8.8** ‰

平均寿命（2023年）： **80.23** 歳

男性：
76.94 歳

女性：
83.74 歳



歴史 03

台湾豆知識

17世紀初めごろ、オランダとスペインの開拓者が台湾に拠点を置きました。

1940年代の終わりから1950年代の始めにかけて、中華民国政府とともに約120万人が中国大陸から台湾に移り住みました。

中華民国は1912年に中国大陸で成立した。当時、台湾は1895年の下関条約によって清朝から日本に割譲されて日本の植民統治下にあった。1945年に第二次世界大戦が終結して日本が降伏した時、中華民国政府は台湾の管轄権行使を開始した。

台湾の古都・台南は2024年、オランダ東インド会社の上陸から400年の節目を迎えた。

(龐家姍撮影)



中華民国政府は1949年、中国共産党との国共内戦の末、台湾に移転した。以来、中華民国（台湾）は台湾本島および周辺の離島の統治を続け、台湾と中国大陸は異なる政府によって治められてきた。中華人民共和国は一度も、中華民国（台湾）が治める台湾本島または他の島嶼において主権を行使したことがない。

歴史年表

以下の年表は約400年前からの台湾の歴史に焦点を当てたものである。これ以前、台湾は数千年にわたりマレー・ポリネシア系の人々のふるさとであった。

1500年代 通説では、台湾を通りかかったヨーロッパの船員が、島の名前をイラ・フォルモサ、麗しの島と記録したと伝えられている。

少数の中国大陸の商人や漁師、海賊たちが訪れる。

1624 オランダ東インド会社が台湾南西部に拠点を置くと共に、先住民の穀物生産習慣の変更を主導。漢民族の労働者を雇用し、水田やサトウキビ畑で働かせる。

1626 スペインの探検家が台湾北部に拠点を確立するが、1642年にオランダに駆逐される。

1662 満州族が中国の明朝（1368-1644）を侵略。逃れた鄭成功（国姓爺）が率いる明朝の遺臣らは、

台湾を占拠するオランダ軍を駆逐し、島に統治機関を置く。

1683 清朝（1644-1912）の軍隊が台湾西部と北部の沿岸地域を支配。

1885 清朝が台湾を同王朝の一省であると宣言。

1895 日清戦争（1894-1895）に敗れた清朝が「下関条約」に署名し、台湾を日本に割譲。その後、1945年まで日本が台湾を統治。

1911-1912 中国大陸で革命家が清朝を倒し、中華民国を建国。

1943 第二次世界大戦中、中華民国指導者の蒋介石が米ルーズベルト大統領および英チャーチル首相とカイロで会談。会談後に発表した「カイロ宣言」で、台湾及び澎湖諸島は中華民国に返還されるべきであると声明。

1945 中華民国と英米が共同でポツダム宣言を発表し、日本に無条件降伏とカイロ宣言の履行を呼び掛ける。

第二次世界大戦終結後、中華民国政府代表が台湾において日本軍の降伏を受け入れる。中華民国台湾省の陳儀行政長官は、日本の台湾総督に文書を送り、「台湾省行政長官として、澎湖諸

島を含む台湾の一切の領土、住民、統治機構、政治、経済、文化施設、そして財産を接收する」と宣言。

1947 1月1日、中華民国憲法公布。施行日は同年12月25日とされる。中国大陸にあった中華民国は3月以降、数ヶ月間にわたって軍を台湾に派遣し、二・二八事件に端を発する台湾住民の大規模な反乱を鎮圧。

1948 中国大陸で国民党率いる中華民国政府と中国共産党反乱軍の内戦が激化。中華民国政府は「動員戡乱時期臨時條款」を施行。憲法に優先し、総統の権限を大幅に拡大する内容を盛り込む。これが国家暴力「白色テロ」の始まりとなる。「白色テロ」は1991年に「動員戡乱時期臨時條款」が廃止されるまで続く。

1949 中華民国の中央政府が台湾へ移転し、それに伴い約120万人の関係者が中国大陸から台湾へ流入。

10月25日に金門で古寧頭戦役が発生。中華民国軍が金門島の北西海岸で共産党軍を駆逐。

台湾にて戒厳令を発令（1987年まで）。

1952 連合国48か国と日本が1951年に調印したサンフランシスコ平和条約に続き、中華民国と日本が双方の戦争状態を正式に終了させる「中日和約」（日華平和条約）を台北賓館で調印。「サンフランシスコ平和条約」第2条では、Formosa（台湾）及びPescadores（澎湖諸島）、それに南沙（スプラトリー）諸島、西沙（パラセル）諸島におけるすべての権利、権限、請求権を日本が放棄したことが確認された。また、中国と日本が1941年12月9日以前に締結したすべての条約、約定、協定が、戦争の結果として無効となった。

1954 米華相互防衛条約がワシントンで調印される。

1958 金門で8月23日、中華民国の守備隊と中国大陸の軍隊による40日以上続く砲撃戦が始まる。

1966 初の輸出加工区が高雄に開設される。これらの工業団地の設置によって台湾は先進国入りを目指し、他国にとって目標とすべき規範となっていく。

1968 9年制の義務教育を実施。当時、同様の長さの義務教育制度を持つ国はわずか9カ国にすぎなかった。

1971 10月25日、国連総会が2758号決議を採択し、中華人民共和国（PRC）を中国の唯一の合法的代表であると承認。中華民国（台湾）は国連から脱退。

1979 台湾南部の高雄でデモを行った民主運動家が、これを受けて拘留、投獄される（美麗島事件）。この事件は結果的に、1986年の民主進歩党の結成につながる。

1987 1949年に発令された戒厳令が解除。新たな政党の結成および新しい新聞出版物の発行が解禁され、民主化が加速する。

台湾海峡兩岸間の人的往来が再開。

1991 「動員戡乱時期臨時條款」が廃止される。1991年から1992年にわたり、立法院（=国会）の立法委員（=国会議員）選挙が行われ、台湾の民意代表が全面改選される。

1991年から2005年まで、7回にわたって中華民国（台湾）の憲法が改正される。

台湾がアジア太平洋経済協力（APEC）のメンバーとなる。

1992 台湾海峡兩岸当局が公認する代表が初めて香港で会合。双方は話し合いや交渉の結果、一定の共通認識と合意を得る。

1995 国民健康保険制度実施。

二二八事件処理及賠償条例が公布される。

1996 中華民国（台湾）で初の総統直接選挙を実施。国民党の李登輝・連戦候補が54%の得票率で当選。

2000 民進党の陳水扁・呂秀蓮候補が総統・副総統に当選。50年以上におよぶ国民党政権が終わり、中華民国（台湾）における政党間の政権交代が台湾で初めて実現。

2002 台湾がWTO（世界貿易機関）に加盟。

軍政と軍令の一元化を図る「国防法」と「国防部組織法」が3月1日より施行。国防部の下に設置された組織を通して文民統制（シビリアン・コントロール）が遂行されるようになる。

2003 地方、あるいは国家の重要な問題を国民の直接投票によって決めることを盛り込んだ「公民投票法」が立法院で可決される。

2004 初の公民投票が第3回総統直接選挙と同時に実施。正副総統選挙で陳水扁・呂秀蓮候補が再選される。

2005 立法院で憲法修正案が可決され、議席数が225議席から113議席に削減される。「定員1名の選挙区、2つの投票用紙」（小選挙区比例代表並立制）の議員選挙制度が導入される。

2008 総統・副総統選挙で国民党の馬英九・蕭萬長候補が当選。中華民国（台湾）における二度目の政権交代が実現。

2009 台湾がWHO年次総会にオブザーバーとして出席。1971年に国連で議席を失って以来、初めて国連関連組織の活動に参加。

馬英九総統が「市民的及び政治的権利に関する国際規約（ICCPR）」と「経済的、社会的及び文化的権利に関する国際規約（ICESCR）」の批准書に署名。

2010 中国と两岸経済協力枠組協定（ECFA）に調印。台湾海峡兩岸間の経済・貿易関係が制度化される。

2011 台湾が中華民国の建国100周年を祝賀。

2012 正副総統直接選挙実施。国民党から立候補した馬英九氏と、新たなパートナーとなった呉敦義氏が当選。

2013 ニュージーランドと経済協力協定（ANZTEC）を、シンガポールと経済パートナーシップ協定（ASTEP）を締結。

国際民間航空機関（ICAO）の第38回総会に、議長のゲストとして招かれ出席。

2014 2月、大陸委員会の王郁琦主任委員と中国の国務院台湾事務弁公室の張志軍主任による正式な会談が中国・南京で行われる。台湾海峡兩岸関係を担う兩岸の政府当局を代表するトップによる初の会談となる。

「ひまわり学生運動」の参加者が立法院（=国会議事堂に相当）を占拠し、中国との間で合意した「サービス貿易協定」の批准に反対。その発効を阻止した。

9つの選挙が一斉に行われる統一地方選挙を実施。候補者1万1,130人を記録。

2015 馬英九総統が11月、シンガポールで中国の指導者、習近平氏と会談。兩岸が分割統治されて以来、66年で初めての首脳会談が実現。

台湾がWTOの貿易円滑化協定（TFA）に調印。WTOに台湾のTFA受託書を寄託した。

2016 民進党の蔡英文主席と学者の陳建仁氏が中華民国（台湾）の正副総統に当選。

立法委員選挙で、民進党が初めて全113議席の過半数となる68議席を獲得。

蔡英文総統は、政府の行為によって何世紀にもわたって不当な扱いに耐えてきた先住民族のため、公式に謝罪した。

2017 台湾で公式認定された16の先住民族の言語を保存し、発展させるために「原住民族語言發展法（＝先住民族語言發展法）」を制定。

夏季ユニバーシアード台北大会を開催。

台湾が自主開発した地球観測衛星「フォルモサット5号」が打ち上げられる。

2018 「行政院移行期正義促進委員会」が5月31日に発足。1949年から1991年まで行われた「白色テロ」と呼ばれる国家暴力の犠牲者に対し、蔡英文総統が謝罪した。その後、同委員会が政治的迫害者の名誉回復を実施。

2019 同性婚を合法化する特別法が可決・成立。アジアで初めてLGBTQ+の婚姻を認める国となる。

2020 現職の蔡英文氏と与党・民進党の頼清徳氏が正副総統に当選。民進党は立法院選挙でも過半数を維持。

2022 国防部は1月1日、予備役部隊に関する業務を担う全民防衛動員署を発足。

8月27日、数位發展部が誕生。関連産業の発展促進と、デジタルガバナンス及びデジタルインフラの全体的な計画調整を担う。

2024 民進党の頼清徳氏と蕭美琴氏が中華民国（台湾）の正副総統に選出される。台湾で1996年に総統の直接選挙が始まって以来、同一政党が3期連続で政権与党となるのは初めてのこと。

政治制度 04



民進党から出馬した頼清徳氏（左）と蕭美琴氏（右）が中華民国（台湾）の総統及び副総統にそれぞれ選出された。（総統府提供）

台湾豆知識

中華民国（台湾）の総統と副総統は、4年ごとに直接選挙で選ばれます。

立法委員（国会議員）選挙では、有権者はそれぞれ小選挙区と比例代表の2票を投じます。

この国の憲法は1947年1月1日に公布されたが、1987年に台湾で戒厳令が解除されるまで、民主政治と法治の基礎としての本来の目的を果たすことはできなかった。それ以降は国家の現状により即したものにするため、1991年、1992年、1994年、1997年、1999年、2000年、2005年の7回にわたって改正されてきた。

中央政府の五院制



行政院

政策の策定と実行



立法院

法律の制定と改正、政策に関する聴取、予算案と政府執務の審議



考試院

公務員制度の運営



司法院

司法制度の監督



監察院

公務員の不正告発と監察、政府機関の監査

これらの憲法改正による重要な結果の一つとして、1991年以降、政府は自身の司法権がその統治範囲内にしか及ばないことを認識した。そのため総統と立法委員（国会議員）は、これらの地域内の人々によってのみ選出され、地域内の人々に対してのみ責任を負うこととなった。

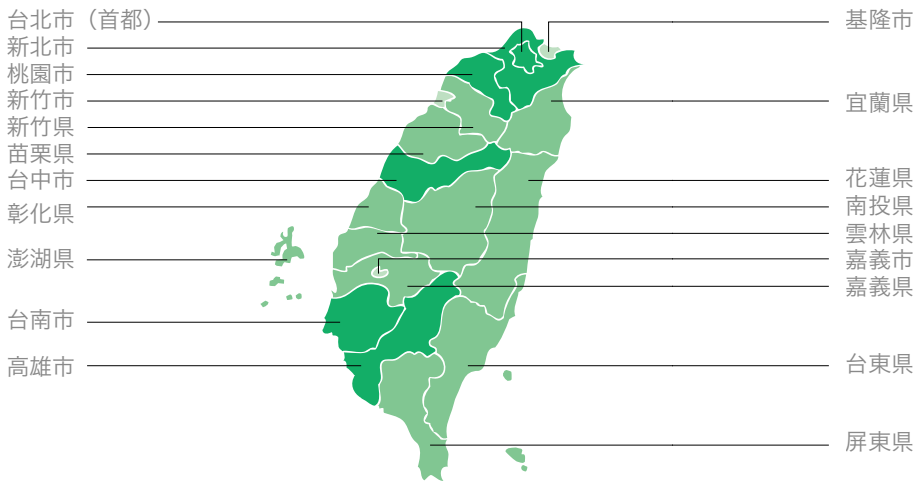
2005年6月に可決した憲法改正により、立法院（国会）の議席数は225から113へと半減し、立法委員の任期は3年から4年に延長された。現在、新たな立法委員選挙制度のもと、各選挙区では1議席のみを選出するようになっている。有権者は一人につき2票を投じるが、そのうち1票は選挙区、1票は比例代表の議席である。また、憲法改正の承認手続きは中華民国国民が国民投票によって行なうこととなっている。

政府機構のレベル

中央政府は総統府および5部門（五院）からなる。現在地方には6つの直轄市と13の県、および県と同レベルの3つの省轄市がある。2014年より、台湾全土のすべての地方自治体の首長と議員が同時選挙で選ばれるようになった。任期は4年である。このほか、これらの下に198の郷・鎮・県轄市と170の区（直轄市にある6つの山地原住民区を含む）が置かれている。

直轄市は、中央政府の直下に置かれる最高レベルの自治体であり、地方の発展をリードする上で重要な役割を果

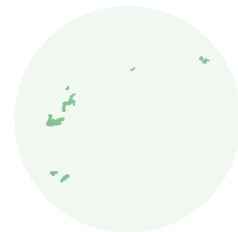
地方自治体



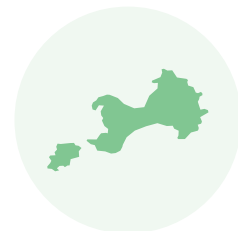
- 6 直轄市
- 13 県
- 3 省轄市

たしている。その地位は、より大規模な資金調達や新たな部門の設立、より多くの公務員を採用する権限を持つものである。6直轄市には人口の多い順に、新北市、台中市、高雄市、台北市、桃園市、台南市が指定されている。

連江県



金門県



總統と行政院長

總統と副總統は直接選挙で選出され、任期は4年、再選されればさらに一期務めることができる。總統は国家元首であり、陸海空軍を統率する。対外的に国家を代表し、立法院を除く4つの院の長の任命権を持つ。そ

のうち行政院（内閣）の長である行政院長は首相に相当し、定期的に立法院（国会）に報告を行わなければならない。行政院は部および委員会（省庁に相当）から成り、それぞれの長（閣僚）は行政院長が任命し、行政院院会（閣議）を構成する。行政効率を高めるため、行政院は省庁レベルの組織を37から30に減らす構造改革を推進している。

2012年から始まった組織再編で、行政院は14部、9委員会、それに3つの独立機関、その他4つの組織に集約された。なお、中華民国（台湾）憲法の下では、総統による行政院長（首相）の任命も、行政院長による部長（大臣）の任命も、立法院（国会）の同意を得る必要はない。

但し、監察院の監察委員及び考試院の考試委員、それに司法院の大法官は、立法院の同意を得て総統が任命する。立法院長（国会議長）は、立法委員（国会議員）の中から投票で選出される。

政党

政府の機能全体において総統は重要な地位を占めるため、台湾では総統の属する政党が「与党」とされる。2000年と2004年の総統選挙で野党の民進党（DPP）が勝利するまで、国民党（KMT）は50年以上にわたって台湾の政権与党の座にあり、2008年の総統選挙に勝利して再び与党となり、2012年にも再選を果

たした。その後は民進党が2016年、2020年、そして2024年の総統選挙で勝利をおさめ、台湾の民主化が始まって以来、初めて3期連続で政権を維持した政党となった。

2024年1月の立法委員選挙では、全113議席のうち国民党が52議席、民進党が51議席、台湾民衆党が8議席、無所属が2議席を獲得した。

外交 05

台湾豆知識

166の国と地域が、**中華民国（台湾）**のパスポート所持者に対してビザ免除や到着ビザ、電子ビザといった優遇措置を適用しています。

台湾は、**米国と正式な外交関係を持たない国の中で唯一、米国のビザ免除プログラムの対象となっています。**

中華民国（台湾）は主権を有する独立国家であり、自国の防衛力を維持するとともに独自の外交活動を行っている。中華民国（台湾）の憲法に記されているように、国家は「他国と友好関係を育み、条約及び国連憲章を尊重し、国際協力を促進し、国際正義を提唱して世界平和を確保する」ことを目指している。外交



パラグアイのサンティアゴ・ペニャ・パラシオス大統領と握手する頼清徳総統（右）。（総統府提供）

政策の究極の目標は、国の保全と長期的な発展に有利な環境を確保することである。

台湾は、地に足の着いた「堅実外交」という確固たる基盤の上に、近い理念を持つ国々との関係を深める「価値外交」、二国間あるいは多国間の枠組みを通して地域の安全保障を強化する「同盟外交」、台湾が優位性を持つ産業や経済実績に基づく「経済・貿易外交」が三位一体となった「総合外交」を推進している。

また、「新南向政策」の下、台湾はASEAN（東南アジア諸国連合）10カ国、南アジア諸国6カ国、それにオーストラリア、ニュージーランドを加えた18カ国と、経済・貿易協力、人材育成、情報共有、地域協力などの拡大に努めている。その長期的目標は、利益の共有という考え方に基づく新たな協力の枠組みを作ることにある。

中華民国（台湾）は現在、正式な外交関係を持つ国々のほか、オーストラリア、カナダ、日本、ニュージーランド、英国、米国、そして欧州連合（EU）及びその加盟国など多くの国々と実質的な関係がある。

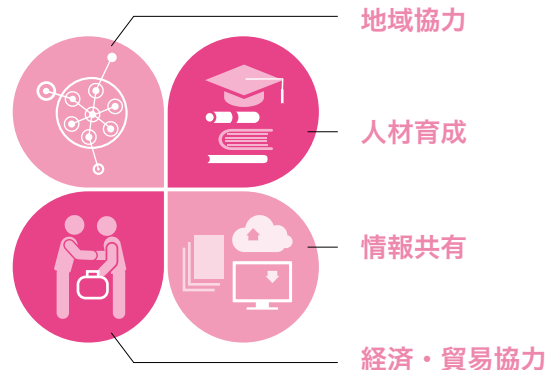
国際参与

台湾は、世界貿易機関（WTO）やアジア太平洋経済協力（APEC）、国際獣疫事務局（WOAH）、中米経

済統合銀行（CABEI）をはじめとする45の国際組織やその補助機関の正式メンバーでもある。さらには欧州復興開発銀行、経済協力開発機構（OECD）、中米統合機構など29の政府間組織やそれらの補助機関にオブザーバーあるいは別の身分で参画している。台湾の健全な資本市場とアジアにおける極めて重要な地位を重視し、中米経済統合銀行は2021年7月6日、台湾事務所を開設した。これは中米以外で開設される初の海外事務所で、インド太平洋地域外での台湾の地域統合への参加が一層深まることになった。

台湾は、国家の主権と尊厳を守り、住民の幸福を実現するため、国際社会と実務的且つ専門的に関わり、で

新南向政策





2024年新南向政策対象国エリート養成クラスの
開講式を主催した外交部の林佳龍部長（外相）。
（金宏濤撮影）

きる限り貢献したいと考えている。そのために世界保健機関（WHO）、国際民間航空機関（ICAO）、国連気候変動枠組条約（UNFCCC）、国際刑事警察機構（ICPO、インタポール）などの国連システムや政府間組織、メカニズムへの参加を求め、人類と福祉の発展のために貢献している。また、こうした努力は国交樹立国や近い理念を持つ国々の支持を得ている。

関係の強化

2024年6月30日の段階で、世界の166の国と地域が、中華民国（台湾）のパスポート所有者にノービザまたは到着ビザ、電子ビザでの入国を認めている。台湾は

さらに、18カ国とワーキング・ホリデー協定を締結している。

米国ビザ免除プログラム（VWP）に参加する40カ国のうち、台湾は唯一、米国と正式な外交関係を結んでいない。これは、双方のとりわけ密接な関係を示している。米連邦議会で1979年に決議された米国内法の「台湾関係法」は、正式な外交関係のない台湾と米国の協力で強固な基礎を築いている。米国は「台湾関係法」及び台湾に対する「6つの保証」に基づき、台湾の安全保障に関与する立場を繰り返してきた。2018年、「台湾旅行法」が米連邦議会を満場一致で通過し、ドナルド・トランプ大統領の署名を受けて成立した。この法律は台湾とアメリカの双方のあらゆるレベルの政府関係者の公式訪問を奨励するもので、米国政府の行政機関および立法機関による台湾への強い支持を示している。2020年には「台北法案」（TAIPEI Act）も米連邦議会で可決、成立した。これにより米国は中華民国（台湾）が世界各国と同盟を結ぶことや台湾の国際参加を支持する立場を表明した。2021年、バイデン政権は台湾に対する米国のコミットメントを改めて示した。米国と台湾の政府関係者の接触緩和に関する新たなガイドラインを定め、米政府による台湾へのコミットメント拡大を促進したのだ。その後、米連邦議会は2023会計年度及び2024年会計年度の国防予算の大枠を定める国防権限法案（NDAA）を可決、成立させた。これらの法案には、台湾の自衛能力を強化

し、台湾が地域の安全維持で重要な役割を果たせるよう支援するための政策と取り組みが盛り込まれた。台湾と米国は協力の範囲を広げており、二国間のパートナーシップは国際連携の一つにまで成長している。

中華民国（台湾）はまた、バチカンとも長年正式な外交関係を持ち、2024年には国交樹立82周年を迎えた。双方は宗教の自由や人道支援に共に取り組んでいる。戦争を終結させて恒久的な平和を促進しようというローマ教皇フランシスコの呼びかけに応じ、台湾はバチカンと協力して、ロシアのウクライナ侵攻の影響を受けた被災地を支援し、被害を受けるウクライナの人々に必要な物資を提供してきた。台湾は愛と慈悲の心で世界平和を促進するために努力しており、これからもバチカンにとって欠かすことのできないパートナーであり続けるだろう。

台湾はEU（欧州連合）やその他の欧州諸国ともさまざまな分野で緊密な協力と交流を展開している。双方は強固且つ活発な経済・貿易関係を構築しており、今後の発展が期待できるグリーンエネルギー、新興技術、デジタルトランスフォーメーション、サプライチェーンの再構築で協力を深めている。また、人権分野の協力も強化しており、毎年開催する「台湾EU人権コンサルテーション」を通じて、ジェンダーの平等、LGBTQ+の権利、移民労働者の権利など、双方が関心を寄せる議題について話し合っている。欧州委員会の2019年から

2024年までの任期期間中、欧州議会はEUと台湾のさらなる連携強化を訴えたり、台湾の国際参与を支持したり、台湾海峡における中国の挑発行為に対する深刻な懸念を表明するなどの決議を40件以上可決した。

台湾と日本は引き続き強い関係を維持しており、それは2017年にそれぞれの窓口機関に「台湾」の名称が加えられたことにも表れている。つまり、台湾の対日本窓口機関である亜東関係協会が台湾日本関係協会に、日本の対台湾窓口機関である公益財団法人交流協会が日本台湾交流協会に改名した。また、日本政府は2024年版「外交青書」でも台湾を「極めて重要なパートナー」と位置づけ、台湾の国際参与を支持し、台湾海峡の平和と安定を促進していく姿勢を示している。

新型コロナウイルスのパンデミックの中、台湾と日本は相互支援によって困難を克服して「善の循環」を生み出した。2021年には日本政府から420万回分を超える新型コロナウイルスワクチンが無償供与され、台湾のワクチン接種率の向上に大きく貢献した。一方台湾は日本に対して医療用マスク、パルスオキシメーター、酸素濃縮器計などを含む医療物資を無償供与した。

台湾と日本の貿易関係が緊密なことは、毎年開催される経済貿易会議と年2回開催される台日経済パートナーシップ委員会でも明らかであり、どちらもコロナ禍による中断を経て2022年に再開された。2024年8

月には台日海洋協力対話の年次会合を開催し、海洋の科学協力や海上安全協力などの機会をさらに拡大することで一致した。

台湾は2015年11月、フィリピンとも「漁業実務の法執行促進に関する協力協定」を締結。双方で漁船の安全を守っている。

蔡英文総統は2016年7月19日、南シナ海問題に関して「4つの原則」と「5つの取り組み」を発表した。

「4つの原則」とは（1）南シナ海における紛争は、国際法と、「海洋法に関する国際連合条約」を含む海洋法に基づいて平和的に解決されるべきである。

（2）台湾はこの地域の紛争解決を目的とした多国間紛争解決メカニズムに含まれるべきである。（3）関係国はこの地域の航行と飛行の自由を守る義務を負う。（4）争議を棚上げして、共同開発を促進して紛争を解決すべきである——の4つだ。台湾は平等な話し合いを基礎として、関連国と共に南シナ海の平和と安定を促進し、地域内の資源の保護と開発を進めていけるよう願っている。また、「5つの取り組み」とは、（1）国の漁業権の保護、（2）多国間協議への参加、（3）科学協力の促進、（4）人道的対応の強化、（5）海洋法研究の人材育成——の5つである。

政府は南沙（スプラトリー）諸島にある太平島を、南シナ海における人道支援と供給の拠点と変えるべく取

り組んでいる。海洋委員会海巡署は2000年以降、太平島と東沙（プラタス）諸島に職員を派遣し、災害対応と人道支援の任務に引き続き取り組みながら、国内外の人々を救助している。海巡署は、南シナ海の平和と安定を進めるため、関連当事国すべてと協力するという政府の方針に基づき、周辺国のカウンターパートとの協力を深めている。

太平島の面積は0.51平方キロメートルで、人間の居住と経済生活が完全に可能な島である。「海洋法に関する国際連合条約（UNCLOS）」第121条に定義されている島の基準にも合致することから、中華民国（台湾）はその領海、接続水域、200海里の排他的経済水域（EEZ）、大陸棚などの権利を有している。

ウィンウィンの関係作り

グローバル社会におけるモデル市民として、台湾は積極的に気候変動、テロ、国際犯罪に対処するための国際的な取り組みに参加しながら、人道支援や疾病管理を継続していく。今後も政府の相互作用、投資、人と人との協力などを通して、同盟国や友好国と持続的なパートナーシップを構築し、平和、自由、民主主義、人権といった普遍的価値を広め、維持するために世界中のパートナーと協力していく考えである。

2015年に設立された「グローバル協力訓練枠組み」（GCTF：Global Cooperation and Training

Framework) は台湾、米国、日本、オーストラリア及びその他の近い理念を持つ国々が、世界中の政府関係者や専門家が参加する研修プログラムを共同で開催するための重要なプラットフォームとなっている。これまでに開催したワークショップは公衆衛生、法の執行、サイバーセキュリティ、エネルギーの安全保障、メディアリテラシー、女性のエンパワーメント、人道支援、災害救助などを含む約20の分野をカバーし、多くの国の能力構築を支援してきた。今後もワークショップへの参加国や取り扱うテーマの領域を増やしていく考えだ。

新型コロナウイルスのパンデミックに対する台湾の対応は、ハイテクを駆使した接触者の追跡や透明性の高い情報公開などを特徴とするもので、「台湾モデル」として世界的に知られた。その成功と、80カ国以上に対するマスクやその他の医療物資の無償供与は、新型コロナウイルスワクチンの開発や研究に関して台湾が諸外国と自然に連携し、協力を模索するための扉を開くことに成功した。

多くの命を救い、パンデミックの中で世界貢献を続けたことで知られる「台湾モデル」は、台湾における急速な感染拡大によって大きな試練を受けることになった。しかし、それに対して国内外から迅速にワクチン供与が行われ、台湾は善の循環に支えられ、ウイルスの抑え込みに一定の成功を収めることができた。こう

した支援に支えられ、台湾はこれからも近い理念を持つ国々と公衆衛生分野での協力を継続し、パンデミックに立ち向かい、「すべての人に健康を」(Health for All)という理念を守っていきたいと考えている。

台湾の社会の変化、経済の自由化、民主化などは、民間セクターに活躍の土壌を与え、非政府組織の活動を活発にした。現在、台湾の市民社会は優れたガバナンス能力を発揮し、台湾が国際社会でソフトパワーを発揮する上で重要な役割を果たしている。非政府組織は、国連が推進する持続可能な開発目標と関連性の高い様々な国際協力プロジェクトに参加し、台湾のプレゼンスを高めている。政府はまた、台湾のNGOが世界との結びつきを強められるよう、これらが国際会議やイベントに参加し、全体的な能力を高めることを支援している。政府はさらに、台湾に拠点を設置する国際非政府組織の取り組みを支援し、民主主義、自由、人権、繁栄のさらなる促進につながる環境を構築するために取り組んでいる。

海峡兩岸 関係


06

台湾豆知識

頼清徳総統が掲げる「平和のための4つの支柱アクションプラン」には以下の主要な要素が含まれています。

- 国防の強化
- 経済安全保障の強化
- 兩岸関係における安定かつ原則に基づいたリーダーシップ
- 「価値外交」の推進

1949年に政府が台湾に移転して以来、中華民国は台湾本島と澎湖諸島、金門、馬祖および多くの小さな島嶼の範囲だけで支配権を行使し、中国大陸は北京当局の下に置かれてきた。1980年代後半に台湾の民主化が加速して以来、中国との市民レベルの交流に関わる多くの規制が緩和された。現在、台湾は中国にとって最大の投資元



台湾の対中国窓口機関である海峡交流基金会（SEF）（台湾北部・台北市）。台湾と中国の間の技術的及びビジネス上の問題を取り扱っている。（金宏濤撮影）

の一つである。1991年から2023年12月末までに承認された台湾からの対中国投資は件数ベースで45,523件、金額ベースで2,063.7億米ドルに達している。また2023年、台湾と中国の貿易総額は1,659.7億米ドルだった。

2008年6月、台湾の対中国窓口機関である海峡交流基金会（SEF）と中国の対台湾窓口機関である海峡兩岸関係協会（ARATS）との間で、制度化された対話が10年ぶりに再開された。その後、2015年8月までに交互に合計11回の対話が行なわれ、双方は23項目の協定（うち21項目が発効）と2項目のコンセンサスを得た。特に重要な協定は、台湾と中国との間の経済、貿易関係を制度化するために2010年6月に締結された「兩岸経済協力枠組協定（ECFA）」である。

平和と安定

徹底的な国内改革を推進するため、台湾は平和的で安定した外部環境、特に中国との安定した関係を必要としている。2024年5月20日の就任演説で、頼清徳総統は台湾海峡の平和、相互利益、繁栄と共存が、台湾と中国にとって共通の目標であるべきだと強調した。

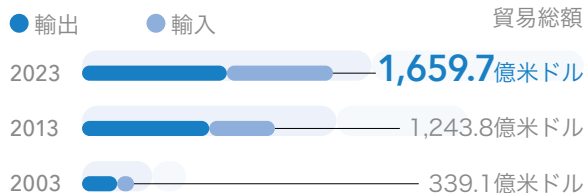
民主主義と自由を守ることは、台湾にとってゆるぎない立場であり、永続的な平和と安定によって繁栄を得ることは台湾の目標である。政府は決して譲歩せず、挑発もしない。その代わりに、「四つの堅持」を守り、台湾海峡兩岸の現状を維持する。

しかしながら中国は近年、台湾海峡兩岸の交流に政治的な前提条件を設け、一方的に公式の対話を停止し、台湾に対して政治的圧力や軍事的脅威を与え続けている。2019年1月2日、中国は「一国二制度」による台湾統一のモデルを示唆した。これは、地域の平和と安定という現状に大きな衝撃を与えるものだった。

2022年、ナンシー・ペロシ米下院議長（当時）が台湾を訪問。翌年には蔡英文総統が、ペロシ氏の後任となったケビン・マッカーシー下院議長と会見した。この2つの会談を受け、中国当局は台湾に対する経済制裁やその他のグレーゾーン戦略に加え、政治的干渉や軍事的威圧を強化した。

地政学的な緊張を踏まえ、政府は「台湾地区及び中国大陸地区の人民関係条例」の改正に取り組んでいる。これまでの改正により台湾海峡兩岸の政治的合意に対する監

台湾と中国の貿易



出典：經濟部國際貿易署

視のメカニズムが制定されたり、無許可の対中国投資への罰則が調整されたりしてきた。また、国の安全保障に関わる技術を所有する者、またはそれにアクセスする権利を持つ者、あるいは政府から委託を受けたり、政府の研究助成金を受けたりした人の中国への渡航制限を厳格化する改正も行った。また、中国資本の企業が第三者投資を通じて、台湾で許可されていない事業に従事するのを防止するための規制も強化した。

台湾の新型コロナウイルス対策の一環として、政府は中国住民を対象にした入国制限を実施していたが、その後これらの措置は人道的立場、ビジネス分野でのニーズ、教育を受ける権利などを配慮して緩和されている。現在は親族訪問や、多国籍企業の人事異動の一環として契約上の業務を行う場合、あるいは台湾での学術交流や学位プログラムに参加する場合など、台湾への入国が許可されている。今後も政府は最新の国際情勢、地域情勢、台湾海峡情勢などを踏まえて政策を見直し、調整していく考えである。

政府はまた、頼清徳総統が掲げる台湾海峡兩岸政策の原則と方向性に基づき、兩岸関係の進展を検討していく。社会各方面の声に耳を傾けながら、兩岸交流の管理のメカニズムを強化し、民主主義と国防体制を改善し、関係当局との調整を進め、そして必要に応じて法改正を実施する。兩岸の相互作用を積極的に促進し、双方の正常かつ秩序ある交流を維持するのがその目的である。

一貫した姿勢

政府は今後も中華民国（台湾）の憲法や「台湾地区及び中国大陆地区の人民関係条例」、そして住民の総意に基づき、兩岸関係の改善に取り組んでいく考えである。

政府は北京当局に対して、中華民国（台湾）の存在を現実として受け入れ、台湾の人々が選んだ正当な政府と対話し、その選択を尊重するよう呼びかけている。また、中国には対立ではなく対話を、封じ込めではなく交流を選び、対等かつ尊厳を原則として、平和と相互の繁栄を追求するよう促している。

政府は中国共産党に対し、政治的および軍事的な威圧を停止し、台湾海峡およびインド太平洋地域の平和と安定を維持するため、台湾と国際的責任を分担すべきだと繰り返し訴えている。中国共産党からの脅威に直面しながらも、台湾は自由と民主主義の価値を守り、地域の平和と安定を守るために「平和のための4つの支柱アクションプラン」を積極的に推進するだろう。また、中華民国（台湾）の関連法令および憲法に基づき、健全で秩序ある兩岸交流を推進していく。

政府はまた、中国の脅威に対抗しつつ、地域の平和、安定、繁栄を促進し、且つ国益を守るため、米国、日本及び近い理念を持つその他の国々との連携を今後も深めていく考えである。

経済 07

台湾豆知識

2023年の世界貿易統計によると、台湾の輸出額の世界順位は16位でした。

台湾は新南向政策の下、ASEAN（東南アジア諸国連合）10カ国、南アジア6カ国、それにオーストラリア、ニュージーランドを加えた18カ国と全面的な関係を深めています。

台湾は世界経済において重要な地位を占めている。世界の情報通信技術（ICT）産業ではトップの役割を果たすと同時に、あらゆる分野の産業にとって主要なサプライヤーでもある。

世界貿易機関（WTO）によると2023年、台湾は世界第16位の輸出国で、21位の輸入国となった。また、2023



台湾は官民連携により、洋上風力発電分野でアジア太平洋地域における先駆者となっている。（莊坤儒撮影）

年12月時点の外貨準備高は世界トップレベルだった。国際通貨基金（IMF）の統計によると、台湾の1人当たり国内総生産（GDP）は2023年に3万2,440米ドルに達した。台湾の名目GDPはポーランドやスイスと近い水準。購買力平価GDPはデンマークやオランダと近い。

貿易動向

2023年は金利の上昇、在庫調整の長期化、地政学的緊張などによる需要の低迷で世界経済の成長が鈍化した。しかし、グローバル・サプライチェーンの再構築と新たなAI技術の応用などの恩恵を受けて、台湾の貿易総額は7,839億米ドルに達し、過去3番目に高い記録となった。ただし、比較の対象となる前年の基準が高かったことから、2023年の貿易総額は13.6%の減少となった。具体的には輸出が9.8%減少し、輸入は17.9%減少した。

国際経営開発研究所（IMD）やビジネス環境リスク・インテリジェンス（BERI）などが発表する世界経済に関する年次調査は、長期的経済成長と技術開発に関して、毎年台湾を世界の最上位の国々と同列に評価している。2023年の調査結果も例外ではない（表「グローバル・ランキング」64-65頁を参照のこと）。

2013年7月、台湾はニュージーランドと経済協力協定を調印した。これは台湾が初めて経済協力開発機構（OECD）のメンバー国と交わした高レベルの経済協力

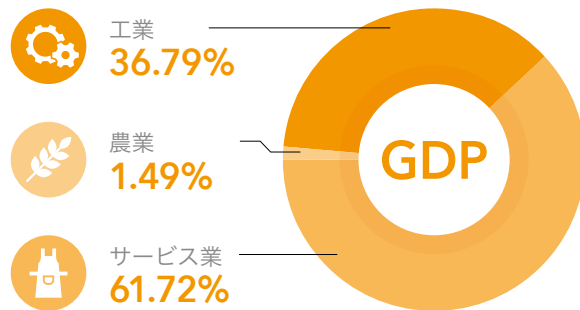
協定である。同年の11月には類似の協定をシンガポールと締結した。このような協定を東南アジアの貿易パートナーと結ぶのは、台湾にとって初めてのことであった。これらの協定の内容はいずれも、WTOの基準を上回るものとなっている。このような進展が「環太平洋パートナーシップに関する包括的および先進的な協定

経済実績(2023)

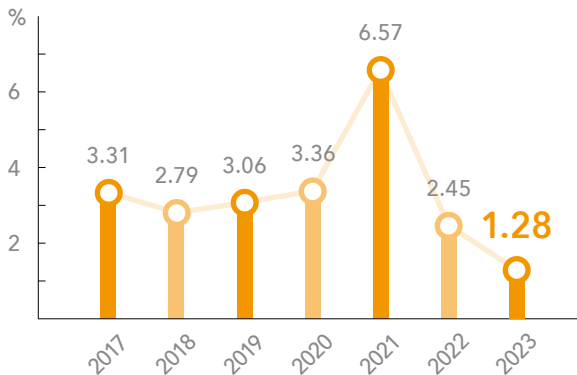
GDP（名目）：**7,550** 億米ドル

一人当たりGDP（名目）：**32,319**米ドル

購買力平価（PPP）（IMF調査）：**72,812**米ドル



経済成長率



出典：行政院主計総処

「CPTPP」などの地域経済統合への台湾の参加につながる事が期待されている。

台湾は2017年にパラグアイと、2018年にエスワティニ王国と、2019年にマーシャル諸島と、2020年にはベリーズと経済協力協定を締結した。これらの協定は、これらの国々との友好関係を強化しながら、経済、投資、技術、貿易の関係を強化することを目的としている。

台湾と米国は2023年6月、新たな貿易協定の枠組みとなる「21世紀の貿易に関するイニシアチブ」第一段階協定に署名した。台米はまた「台米経済繁栄パートナー

シップ対話」や「技術貿易と投資に関する協力の枠組み」などを通して、サプライチェーンでの協力やエネルギー転換を強化している。さらに2024年2月22日には「国際開発協力了解覚書」を締結。台湾はアメリカの国際開発金融公社（DFC）とともに、民間セクターと投資協力を推進することとなった。

発展へのアプローチ

2016年、台湾は産業の転換と高度化を促す新たな経済発展政策を打ち立てた。これは「5+2産業イノベーション計画」と呼ばれ、つまり次世代を担うスマート機械、IoT（アジアのシリコンバレー）、バイオ医薬、グリーンエネルギー、国防産業、それに新農業と循環経済を促進するというものであった。

これまでの政策を踏まえて2020年に選定された「6大核心戦略産業」は、2019年から始まった「投資台湾三大方案」に関連するもので、つまりは「情報デジタル関連産業」、「情報セキュリティ産業」、「バイオメディカル産業」、「国防戦略産業」、「グリーン電力と再生可能エネルギー産業」、「戦略備蓄産業」であり、これらは台湾全体の産業発展を促進し、産業の転換と高度化のためにより良い投資環境を創出すると見られている。

政府はまた、今後30年間の国家発展のニーズを満たすために、経済成長を促進する「前哨基礎建設計画（将来を見据えたインフラ建設計画）」を推進している。この

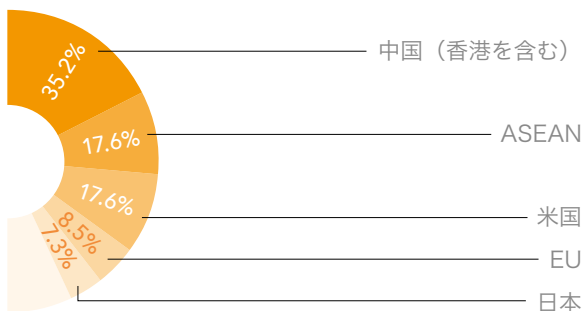
貿易・投資実績（2023年）

貿易総額： **7,839**億米ドル

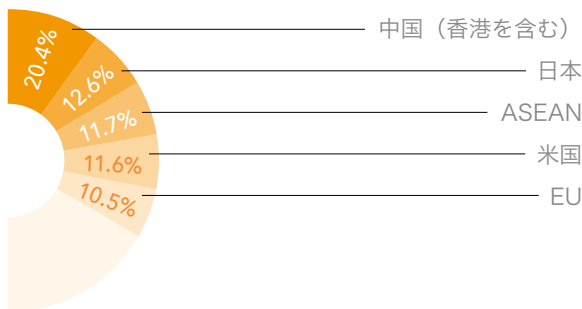
↑ 輸出額： **4,324**億米ドル
↓ 輸入額： **3,514**億米ドル

貿易収支： 黒字810億米ドル

輸出（全体に占める割合）



輸入（全体に占める割合）



外貨準備高： **5,706**億米ドル

（2023年12月）

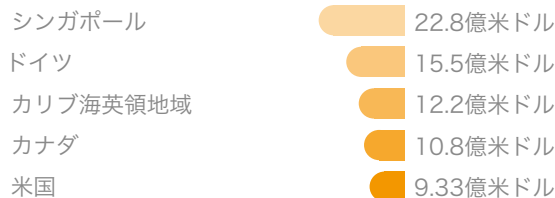
対外投資登記額： **235.7**億米ドル

● 投資先上位5カ国・地域



対台湾投資登記額： **112**億米ドル

● 投資元上位5カ国・地域



グローバル・ランキング

調査名（発表時期）	ランク	調査対象国数	調査機関
IMD世界競争力年鑑（2024年6月）	8	67	国際経営開発研究所（IMD）
経済自由度指数（2024年2月）	4	184	ヘリテージ財団


計画は「軌道インフラ」、「デジタルインフラ」、「水利インフラ」、「食の安全」、「グリーンエネルギー」、「地方都市インフラ」、「少子化対策と子育て支援」、「人材育成と雇用支援」の8つを主軸としている。

産業のイノベーションを促進するため、政府は環境の保護にも取り組んでいる。これを念頭にした「新経済発展モデル」は、産業構造の再編、国土の利用計画、地方創生戦略を統合し、グリーンエネルギーの使用を促進しながら持続可能な発展を促進することを目指している。

2024年には経済と産業を強化するため、政府は「5大信頼産業」、すなわち半導体、人工知能（AI）、軍事産業、セキュリティ、次世代通信を経済の柱にすることを決めた。また、中小企業の高度化と転換を支援することや、包摂的成長、スマート技術、そして持続可能性などが、台湾の経済成果をさらに向上させるだろう。

生成AIの登場とデジタル・トランスフォーメーション（DX）、ネットゼロ移行などの課題に対応すべく、政府は既存の「アジア・シリコンバレー計画」をベースにした「アジア・シリコンバレー計画3.0」を提案した。この計画は、AI、5G、衛星ネットワークなどの技術開発に重点を置き、DXやネットゼロ移行を加速させることを目的としている。また、今後4年間で関連のスタートアップへの資金提供を拡大することを目指している。

こうしたアプローチの下、政府は賃金水準の引き上げや地方創生の促進を目指し、世界的課題や長引く米中貿易摩擦への対応を図っている。こうした取り組みは台湾の産業の競争力を向上させ、台湾経済をさらに活性化させると期待されている。



世界最大の半導体生産国である台湾では「SEMICON Taiwan」のような世界トップクラスの国際見本市が開催されている。(林格立撮影)

科学技術 08

台湾豆知識

台湾は情報通信技術（ICT）製造分野で世界をけん引する担い手です。

IMD（国際経営開発研究所）が2024年6月に発表した「世界競争力年鑑」で、台湾は67か国・地域のうち8位でした。

台湾を「イノベティブ、インクルーシブ、サステナブル」にするという政府のビジョン「2030スマート台湾」を実現するため、国家科学及技術委員会（旧科技部）は他の省庁との協力を強化しながら、国が多方面のニーズをより理解し、革新技術を日常生活に取り込み、環境に優しい新しい産業の商機を開拓できるよう取り組んでいる。科学技術は国の経済成長と発展にとって主要な原動力となることから、国家科学及技術委員会はスタートアップの育成、国内に3か所あるサイ

エンスパークの運営、学術研究の支援などを通して、関連の発展を後押ししている。国家科学及技術委員会はまた、創造性を育み、業界のニーズに焦点を当てた研究を確実に行うためのさまざまな措置やプロジェクトを実施している。

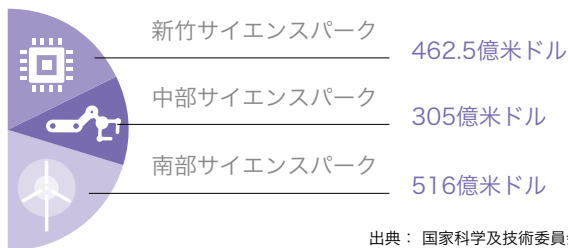
台湾のハイテク企業の成功は、応用科学の進歩に向けた政府の豊富な資金投入によるところが大きい。政府の支援を受け、工業技術研究院（ITRI）と国家実験研究院（NARLabs）、資訊工業策進会（III）は、台湾がテクノロジー・パワーハウスへと大きく飛躍するに当たって重要な役割を果たした。これらの機関は研究分野を指揮し、エンスパークの構築を支援し、民間部門の研究開発と新技術調査を援助してきた。

イノベーションの支援

ITRIのイノベーションの素晴らしさは、過去16年間、米国のR&Dマガジン社が主催する「R&D100 Award」で58の賞を受賞し、2017年からエジソン賞を16回受賞していることや、「Clarivate Top 100 グローバル・イノベーター」を2015年以降、8回受賞していることから伺い知ることができる。また、ITRIは世界市場で大きな成功を収めた企業の育成でも重要な役割を果たしてきた。その中には世界の二大カスタムICチップメーカーである台湾積体電路製造（TSMC）や聯電（UMC）も含まれる。

国家実験研究院（NARLabs）は2003年、国家科学及技術委員会に隷属する独立した非営利の研究機関として設立され、

台湾の3大サイエンスパークに入居する企業の売上高（2023年）



傘下に7つの研究センターを持つ。R&Dプラットフォームの確立、学術研究のサポート、最先端の科学技術の創出、および高度ハイテク人材の育成の4つを使命とする。また、「世界のトップを目指し、ローカルな価値を切り開く」ことを目指し、学術研究の成果を実際のビジネスや新興産業に転換し、社会福祉に貢献すべく取り組んでいる。

設立21年を迎えたNARLabsは、新しい技術を積極的に取り入れ、国の政策と連動しながら、国立の研究所としてイノベーションを牽引している。今後も、科学研究分野の既存の成果を基盤とし、多分野の統合や新たな応用技術の発展を追求していこう。これらは環境への影響や社会の変化に対応するものであり、AI、ビッグデータ、無人機、モノのインターネット（IoT）、バイオテクノロジーなどが含まれる。NARLabsはR&Dプラットフォームの確立と新技術の実現に深くコミットし、これにより国家の発展に貢献している。

グローバル・ランキング

調査名（発表時期）	ランク（分野）	調査対象国数	調査機関
世界競争力ランキング 2019（2019年10月）	4位 （技術革新能力）	141	世界経済フォーラム
世界競争力年鑑 （2024年6月）	10位 （技術インフラ） 6位 （科学インフラ）	67	国際経営開発研究所（IMD）

資訊工業策進会（III）の目標は、デジタルトランスフォーメーションのプラットフォームを提供することによって、台湾の国際競争力を高めることにある。IIIは情報通信技術（ICT）分野における革新的な商品やアプリケーションの研究・開発を支援するほか、国のシンクタンクとしてICT政策の立案や推進に必要な人材を育成し、半官半民の立場からICT産業の発展に重要な役割を果たしている。IIIは過去40年間で専門人材を50万人以上も輩出してきた。

台湾のテクノロジー・エコシステムは、アジアでプレゼンスを確立しようとする世界中の投資家に理想的な環境を提供している。台湾のベンチャーキャピタリスト、エンジニアリングサービスのプロバイダー、および技術者たちは、最先端技術のR&D（研究・開発）で協力し、幅広い経験を持つ。こうしたエコシステムは、イノベーションとスター

トアップの新しいハブとなるテック系スタートアップ支援拠点「Taiwan Tech Arena」（TTA）で示され、世界中の若い起業家を引き付けている。アクセラレーター、ベンチャーキャピタル、企業などを結び付けるTTAは、台北市と台南市に拠点を置き、活気に満ちた国際的なスタートアップ・エコシステムの構築に取り組んでいる。TTAは台湾のテック系スタートアップの代弁者であり、グローバル・テック企業の出発点でもある。

科学技術での専門性を磨くための長年の官民による取り組みを経て、台湾のサイエンスパークにはいま、バイオテクノロジー、コンピュータ及びその周辺機器、集積回路、オプトエレクトロニクス、精密機械、通信などの分野で飛躍を目指す企業がそれぞれのクラスターを形成するほどになっている。

教育 09

台湾豆知識

台湾は2014年より、12年間の「国民基本教育制度（＝義務教育制度）」を実施しています。

台湾には145校の総合大学、単科大学、専科学校があります。

台湾で教育は非常に重視され、政府予算の大きな部分が教育に充てられている。高等教育機関に進む人の割合は増えつつあり、15歳以上の人口において技術学院または大学以上の学歴を有する人の割合は最多の49.7%を占める。これは10年前と比べて8ポイント上昇している。

子どもたちにより多くの機会を与えるため、教育部（日本の文部科学省に類似）は2014学年度より、台湾にお



台北表演艺术中心
（台北パフォーミング
アートセンター）
で開催された恐竜の
イベントに夢中にな
る男児。（潘怡如撮影）

ける国民基本教育（＝義務教育）期間を9年から12年に延長した。台湾の若者は毎年、生物、化学、地球科学、数学、情報、物理などの国際科学オリンピックで優秀な成績を残している。こうした人材は社会に出たあと、台湾経済の繁栄と生活の質の向上に大きく貢献している。

台湾の文化の多様性を踏まえ、政府は12年間の国民基本教育において台湾語、客家語、先住民族言語、および新住民言語を含めた郷土言語の学習を必須とし、これらの言語の伝承、復興、発展を促進している。また、台湾の人材と産業の国際競争力を強化するため、2021年には「2030バイリンガル政策」を定めた。

奨学金制度

外国人留学生は、政府と各大学が提供する奨学金制度の両方を利用することができる。例えば台湾奨学金プログラムは、さまざまな分野で学士または大学院の学位の取得を目指す学生に奨学金を提供するものである。申請希望者は中華民国が海外に設置する在外公館（大使館、代表処、弁事処など）に問い合わせるか、教育部のウェブサイト (<https://english.moe.gov.tw/lp-24-1.html>) を参照のこと。

教育部はまた、より多くの海外の学生に台湾で華語を学んでもらうため、華語文奨学金プログラムを設置している。このプログラムは、留学生が国際感覚を養い、台湾の文化や社会を理解しながら、全土で提携する65か所

教育の現状

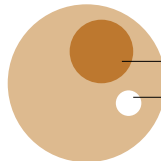
識字率（15歳以上）：**99.2%**（2023年）

政府の教育・科学・文化予算：
中央政府予算の**19.5%**（2024年）

高等教育機関：**145**校
（総合大学・単科大学133校、専科学校12校）

高等教育機関に在学する学生数：

合計**109**万人



修士課程 **17万6,703**人
博士課程 **2万8,504**人

（2023学年度）

の語学センターで台湾華語を学ぶことができるというものだ。

大学の語学センターのリストと台湾での中国語学習についての情報は、教育部(www.edu.tw)や「Study in Taiwan」(www.studyintaiwan.org)、台湾華語教育資源中心(https://lmit.edu.tw/lc/school_list/)などのウェブサイトで紹介している。



台湾は台湾オペラと呼ばれる伝統戯曲「歌仔戲」(ゴアヒ)の保存と普及に力を入れている。(総統府提供)

文化

10

台湾豆知識

台湾は華語ポップ・ミュージック産業の中心地です。

国立故宮博物院は中華文化の收藏品において世界最大規模を誇ります。

台湾は伝統的な文化と現代的な文化の魅惑的な融合で有名である。台湾の歴史と文化の多様性を紹介するべく、台湾には各地に博物館が存在する。例えば国立故宮博物院(台湾北部・台北市、台湾中南部・嘉義県)、国立台湾博物館(台北市)、国立歴史博物館(台北市)、国立台湾史前文化博物館(台湾南東部・台東県)、国立台湾歴史博物館(台南市)、国立台湾文学館(台南市)、国

立台湾美術館（台湾中部・台中市）などがある。また、国家戯劇院と国家音楽庁（台北市）、台中国家歌劇院（台中市）、衛武宮国家芸術文化センター（台湾南部・高雄市）、台湾戯曲中心（台北市）など全国にパフォーマンス施設を展開している。こうした高い質を持つ施設は台湾をアジアにおける芸術の中心とし、台湾国際芸術節（TIFA）などのイベントを開催している。台湾には歴史ある建築物も多く、寺廟や旧官舎など国の重要文化財だけでなく、リノベーションされてコミュニティセンターやカフェ、ショップ、その他の公共スペースとして再利用されているものまである。実際、台湾では伝統的な中華芸術や工芸、風習が世界のどの地域よりもより完全な形で保存されており、書道の大会やイベントが常に人気のある催しとして開催されるなど、繁体字（正体字）中国語を今でも使っている数少ない地域である。

伝統的な仏教や儒教、道教などの教義は、祭りや文学、視覚および舞台芸術まであらゆるところで見ることができる。加えて台湾を訪れた人々は、客家（ハッカ）語や台湾語を話す人々、それに台湾に住む16の先住民族の文化遺産について学ぶことができる。台湾はまたその豊かな文化を、文化部の海外出先機関が行うイベントを通して世界に発信している。

同時に、台湾の大都市は昼夜を問わずさまざまな娯楽を提供し、盛り上がっている。高い評価を得ているダンスグループや、活力にあふれたミュージックシーンが繰り広げられ、台湾を疑いもなく世界の「マンドポップ（Mandopop）」、

すなわちマンダリン（台湾華語）ポップスの中心地として。最近オープンした台北流行音楽中心や高雄流行音楽中心は、すでに台湾の主要なコンサート会場となっている。台湾のテレビ・映画業者はここ数年、復活をとげ、文化クリエイティブ分野におけるデザイナーショップやマーケット、展示会の数は急成長している。

文学から民俗行事、活気に満ち溢れた昔ながらのナイトマーケットまで、台湾の伝統は日常生活に密接に絡み合い、過去の活力と深さが現代に生かされた文化を形成している。

竹細工はその素材の特性から、熟練の技が必要とされる伝統技巧だ。（陳美玲撮影）



マスメ ディア 11

台湾豆知識

台湾は2024年、「国境なき記者団」(RSF、パリ)が行う報道の自由度に関するランキングで東アジア1位の評価を得ました。

台湾のメディアはさまざまな形態のメディアの存在と業界の激しい競争の中、豊かな多様性を見せている。台湾の報道機関は、アジアで最も高い自由度を誇る環境の下で活動を行っている。

台湾は、フランスに本部を置く国境なき記者団(RSF)が2024年5月3日に発表した2024年度「世界報道の自

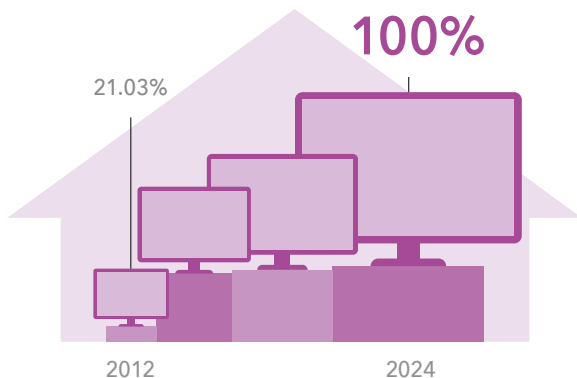


2023年に台湾で出版された書籍のタイトルは57,000以上に上った。(莊坤儒撮影)

由度ランキング」で世界27位、東アジアで1位に格付けされた。調査対象となった180の国・地域のうち台湾は、62位の韓国、70位の日本、135位の香港、172位の中国を上回った。世界1位はノルウェー、2位はデンマーク、3位はスウェーデンの順だった。なお、2024年6月時点で、世界22カ国、84のメディアに所属する176人のジャーナリストが台湾をベースにして活動している。

また、台湾ではほとんどのメディアが、業界を挙げた伝達方法のデジタル化に取り組んでいる。情報通信技術分野で台湾が持つ強みを活かした電子出版という手

デジタルTV放送の普及率



出典：国家通信傳播委員会 (NCC)

メディアの現況



ラジオ局：
186局



地上波TV局：
5局



衛星放送番組プロバイダー：
88社 (209チャンネル)



CATVシステムオペレーター：**64**社

(2024年の統計)

出典：国家通訊傳播委員会 (NCC)

段が、2023年に57,338冊の書籍を出版した台湾の出版業界に新たな活気を注ぎ込んでいる。

ケーブルテレビのデジタル化は、視聴者の視覚体験を大幅に改善するだけでなく、より革新的で多様なブロードバンドサービスを可能にしている。デジタル化の事実上の完了に伴い、ケーブルテレビは様々なマルチメディアアプリケーションにとっての重要なプラットフォームとなっている。

台湾への旅行 12

台湾豆知識

2024年6月の段階で、世界62カ国・地域以上の人々が台湾にビザなしで14日間、30日間、90日間滞在できます。

台湾には24時間無休の多言語対応トラベル情報ホットライン（0800-011-765）があります。

さまざまな文化が融合し、美しい自然景観に恵まれ、多様な料理やシティライフが楽しめ、また観光サービス業の発達した台湾は、あらゆるタイプの旅行者にとって理想的な観光地である。2024年6月現在、世界62ヶ国・地域以上の人々が、ノービザなどの優遇措置で台湾に14日間、30日間、90日間滞在できる。



台湾南東部・台東県の海岸でウィンドサーフィンを楽しむ人。（林旻萱撮影）

加えて、台湾全土で1,100キロメートルに及ぶ鉄道網と、西海岸沿いの350キロメートルには高速鉄道が整備されている。高速鉄道は台北から高雄まで94分間で旅することができる。この2都市と台湾北部・桃園市、台湾中部・台中市は最先端の都市交通システム（MRT）網も備えている。

国際見本市

中華民国対外貿易発展協会（TAITRA、日本での名称は台湾貿易センター）は年間を通じて、全産業を包括する見本市を開催している。主な会場には、台北世界

ローカルな軽食からミシュランの星を獲得したレストランまで、台湾はあらゆる人々の好みを満足させることができる。（林晃萱撮影）



貿易センター（TWTC）、TWTC南港展示ホール、台湾南部の高雄展示ホールなどがある。詳細はwww.taipeitradeshows.com.tw を参照のこと。

外国人観光客のための情報

政府は、外国籍の人のため、台湾での観光や生活、就労についての情報を提供するウェブサイトやホットラインを数多く開設している。

ウェブサイト/ホットライン 使用言語

交通部観光署
www.taiwan.net.tw

台湾華語、英語、フランス語、ドイツ語、インドネシア語、日本語、韓国語、マレー語、スペイン語、タイ語、ベトナム語

旅行情報ホットライン
0800-011-765 (24時間)

英語、日本語、韓国語、台湾華語

内政部移民署
www.immigration.gov.tw

英語、インドネシア語、クメール語、台湾華語、タイ語、ベトナム語

外来人士在台生活問い合わせサービスホットライン
0800-024-111

24時間対応：英語、日本語、台湾華語
平日9時～17時対応：ベトナム語
平日13時～17時対応：インドネシア語、クメール語、タイ語

台湾の主な観光スポット



北部

国立故宮博物院：www.npm.gov.tw

台北101：www.taipei-101.com.tw

新北市鶯歌陶磁博物館：

www.ceramics.ntpc.gov.tw

国立中正紀念堂：www.cksmh.gov.tw

龍山寺：www.lungshan.org.tw

雪霸国家公園：www.spnp.gov.tw

陽明山国家公園：www.ymsnp.gov.tw

東北角・宜蘭海岸国家風景区：

www.necoast-nsa.gov.tw

北海岸・觀音山国家風景区：

www.northguan-nsa.gov.tw



東部

太魯閣（タロコ）国家公園：www.taroko.gov.tw

台湾森林遊楽区：

recreation.forest.gov.tw

東部海岸国家風景区：

www.eastcoast-nsa.gov.tw

花東縱谷国家風景区：

www.erv-nsa.gov.tw



南部

台江国家公園：www.tjnp.gov.tw

墾丁国家公園：www.ktnp.gov.tw

阿里山国家風景区：www.ali-nsa.net

西拉雅（シラヤ）国家風景区：www.siraya-nsa.gov.tw

大鵬湾国家風景区：www.dbnsa.gov.tw

茂林国家風景区：www.maolin-nsa.gov.tw

雲嘉南滨海国家風景区：

www.swcoast-nsa.travel.gov.tw

寿山国家自然公園：www.nnp.gov.tw

離島地域

金門国家公園：www.kmnp.gov.tw

澎湖南方四島国家公園：www.marine.gov.tw

馬祖国家風景区：www.matsu-nsa.gov.tw

綠島・蘭嶼：

tour.taitung.gov.tw/en/discover/offshore-islands

中部

日月潭国家風景区：

www.sunmoonlake.gov.tw

九族文化村：

www.nine.com.tw

參山国家風景区：www.trimt-nsa.gov.tw

国立台湾工芸研究發展センター：www.ntcri.gov.tw

鹿港鎮公所：www.lukang.gov.tw

国立自然科学博物館：www.nmns.edu.tw

玉山国家公園：www.ysnp.gov.tw



台湾の主なフェスティバル/ イベント

時期	フェスティバル/ イベント*
1月	新年カウントダウンイベント
2月	台湾ランタンフェスティバル**
3月	台湾国際らん見本市
4月	台中媽祖国際観光文化フェスティバル 大鵬湾ヨットフェスティバル 台北ファッションウィーク
5月	澎湖国際海上花火フェスティバル
6月	台湾仲夏節 東海岸大地芸術祭&月光・海音楽会
7月	台湾国際バルーンフェスティバル

8月	台湾美食展
9月	台湾サイクリングフェスティバル
10月	日月潭Come! Bike Day花火 と音楽のフェスティバル
11月	原住民族国際音楽フェスティバル (Taiwan PASIWALI Festival) 菊島澎湖離島横断マラソン
12月	台湾好湯温泉美食カーニバル 新北市クリスマスイルミネーション

*詳細については交通部観光署のウェブサイトをご覧ください。
www.taiwan.net.tw

**台湾ランタンフェスティバルは、毎年異なる場所で開かれます。2025年は桃園市での開催が予定されています。



(荘坤儒撮影)

通貨

通貨単位：台湾ドル、台湾元 (NT\$/TWD)
為替レート：NT\$32.37=US\$1 (2024年6月)

時差

UTC+8時間。国内の時差はなく、サマータイムもない。

クレジットカードとトラベラーズチェック

主要なクレジットカードは広範囲で使用でき、トラベラーズチェックは外国為替取扱銀行やホテル、旅行者向けの商店で現金化できる。

チップ

台湾にはチップの習慣はないが、ホテルやレストランでは通常、自動的に10%のサービス料が加算される。

電圧

AC 110V/60Hz

ビザ (査証) についてのお問合せ

外交部 (日本の外務省に相当) 領事事務局
電話：(+886)-2-2343-2888
公式サイト：www.boca.gov.tw

関税についてのお問合せ

財政部関務署
電話：(+886)-2-2550-5500 内線2116
公式サイト：web.customs.gov.tw